



“日本一の福島ブランド”の話しも EM技術懇談会 in 南相馬市

EM技術懇談会は、3.11東日本大震災復興支援の一環として年3回、被災した地域の環境改善や農業の復興に熱意ある方々を対象に比嘉照夫理事長が現場目線で直接、参加者と向き合い対策を講じる内容の濃い話し合い。

平成27年4月25日（土）、第13回目のEM技術懇談会が福島県南相馬市の原町商工会議所で開催され、南相馬市内のみならず近隣の市町村から47名の熱心な方々が参加された。U-ネットの吉澤理事が初めに「復興支援事業の現状と今後の対応について」を話し、続いてEM研究機構の工学博士奥本修一氏が「EMによる野菜への放射能移行抑制」やベラルーシ国立アカデミー放射線生物学研究所でのEMによる放射能減少実験の成果などをグラフで分かりやすく説明した。

その後、地元福島県の農業、畜産、農産物流通を現場で先進的な取り組みをする方々6名から「現状と今後の抱負について」の発表があった。内容は紙面の関係で割愛するが、発表者は以下の皆さん。馬場EM研究会の羽根田薫氏、瀧澤牧場の瀧澤昇司氏、NPOヴィヴィドリーサポートセンターの武藤麻央氏、コズモファームの今泉智氏、ファームランドヤマロクの佐藤康毅氏、幕田アメニティの幕田武広氏、その他に会場から数名の方が発表された。

これらの発表内容について比嘉理事長が総評され、またEM技術の最新情報などの話をされた。特に風評被害で悩む福島県産農産物を日本一、世界一にするための“福島ブランド”をどう作るかの話には、会場に集まった方々から驚嘆の声が上がっていた。また、水稻栽培におけるEM団子の活用や粉炭利用の除草対策にも興味を示す声が聞こえた。

参加者同士の質疑応答の中で興味深かったのは、EM活性液の臭気対策、一般的にはあまり嫌な臭いではないと思うが、天然ハーブや杉の葉を少し入れると、レモンなど柑橘系の香りになるそうだ。

この懇談会の後、会に参加された南相馬市選出福島県議会議員の高野光二氏（ふくしま未来ネットワーク会長）と比嘉理事長がEM技術での農業復興について情報交換され、4年間も農業から離れている現状を改善するための「やる気の仕組み」作りによどのような協力体制ができるかの話で、今後の進展を見守るということになった。

最後に事務局として嬉しいこと、U-ネットでは寄付金の税額控除等の恩典ある認定NPOになる仮認定になったことで寄付を募っているが、この懇談会に参加された方の大半が会場に置かれた「返込用紙入りの寄付のお願い」の封筒を持ち帰っていただいた。その後、実際に多くの方から寄付を頂いた。



南相馬市原町商工会議所で開催されたEM技術懇談会で佐藤康毅氏（右側立っている）の質問に答える比嘉照夫理事長（中央で両手を開いている）



情報交換する高野光二福島県議会議員（右奥）と比嘉照夫理事長（右手前）
左奥はU-ネットの吉澤理事、左手前は福島県世話人の武藤麻央氏